◇歴史の道(中城区域)国史跡へ
◇しま言葉 ～行動計画の策定を

与那嶺 義雄 議員

問 首里グスクから西原を経由し中城～勝連グスクに至る「歴史の道」の中城村の区域が、町内の内間御殿と同格の国指定史跡となる。内間金丸が即位をする100年前にできたことでも貴重な歴史遺産だ。町内を走る歴史の道には、幸地グスクや同時代の古番所跡地、三司官蔡温時代の刻時森(ククジムイ)が存するなど歴史ロマンあふれる史跡群がある。この歴史の道の整備は「文教のまち西原」のイメージアップになり、東アジアからも注目される沖縄の観光資源としても極めて有用だ。整備には多くの時間と予算が不可欠。一括交付金での取り組みを。

教育部長 町全体の文化財整備の方針を定める歴史文化基本構想を2年を目途に策定する予定。その中で整備できるか検討したい。

問 この歴史の道に対する町教委の認識が、整備への関心や取組に影響する。

中城村教育長が、「琉球王府時代の交通史や土木史を解明していく上で、歴史上、学術上の価値が高い」と述べているように、この歴史の道の整備は西原町だけではなく、琉球の史跡文化財の視点からも重要だ。町内のグスクや関連遺跡群は整備をすれば内間御殿と同様に国指定史跡になるという認識が大事だ。

教育長 議員の指摘には私も同感。ただ町教委としては、この歴史の道について勉強不足もあって充分な把握がされていない面もある。一括交付金で整備できないか検討したい。

問 去る11月に与論町におけるしま言葉の継承普及について調査をした。県内の自治体では、その重要性を認識するも、どこから手を付けてよいのか手探り状態の観がある。しかし、与論町では保育所の園児から学校現場での取り組みなど、しま言葉の継承普及のモデルが出来つつある。単発的な取り組みだけではなく、全体計画や行動計画を策定し体系的な取り組みが重要だ。

教育部長 この2年間、しま言葉講師養成でNPO法人沖縄うちなーぐち会員、NPO沖縄語普及協議会と連携し、しま言葉の普及推進講座を実施した。次年度は、「西原ムニーの会」(講座受講者)を中心に保育園や幼稚園、小学校等に派遣し、しま言葉の継承に努めたい。全体計画、行動計画についても検討したい。

琉球王府『歴史の道』(イメージ。中城村)

◇福祉行政
◇環境問題
◇教育行政

上里 善清 議員

問 学童クラブの国庫補助金が、幼稚園児を除外するとの方針が打ち出されています。特例処置として予算確保がされるようだが、根本的な問題解決にならない懸念があり、子育て世代としては心配だ。町として今後の対応策を伺う。

福祉部長 新制度において幼稚園児は放課後児童健全育成事業の対象外となっていることから、学童クラブが特例承認なしで幼稚園児を受け入れた場合、類似事業として扱われ、補助の対象外となることが想定されます。5歳児問題については、幼稚園の預かり保育、認可保育所の5歳児保育の利用で対応していきたいと思います。

問 河川の浄化策として、下水道の接続を進めているが、現在の接続啓蒙活動と、全町本管施設の完了予定について伺う。

上下水道課長 現在の接続率は46%、全町本管施設の完了予定は平成44年度です。現在、下水道の整備を毎年拡大している。接続率に関しては使用可能世帯に対する使用世帯で出しますが、毎年、使用可能世帯も増えるため、大幅進捗は、厳しい状況です。また、啓蒙キャンペーンは、下水道の日を中心に下水道パレード、リーフレットを配布し活動しています。

問 水質浄化の方法として、小波津川の下流周辺へ浄化作用のあるアシやヒルギ等の植栽を検討できないか伺う。

総務部長 ヒルギ等の植栽は水質のみならず、自然環境の改善面でも一定の効果が期待できるものでありますが。しかし、帯状分布するヒルギ類が大量に植生する事によって土砂が堆積し、大雨時の海域への放流を妨げ、氾濫等の懸念がある為、植栽については十分検討する必要があると思います。

問 昨今の情報アイテムとして、スマートフォン・携帯電話は欠かせないものとなっていますが、反面、児童の視力低下が進んでいる事が懸念される。適正な利用方法を促すべきだと思うが、対応策を伺う。

教育部長 児童の視力低下とスマートフォンとの関係は少なからずあるのではと考えております。家庭において長時間の使用をしないよう、三者面談において依頼したいと思います。

預かり拡大23市町村

5歳児受け皿確保へ検討

保育士確保に悩みも

5歳児問題を取り上げた新聞記事

◇環境整備について
◇選挙法定ポスターの場所移動について
◇一括交付金の件

屋比久 満 議員

問 (1) 環境整備について、816番地4と816番地5付近の排水路へ、コンクリート製の蓋をなぜ設置してないのか

(2) 今後、設置する考えはあるのか。

建設部長 (1) 昭和52年頃に我謝都市下水路整備事業で原則的に、下流側は蓋のないオープン開水路として整備されたので蓋を設置しておりません。

(2) 当該排水路は、開水路での整備が原則ですので、道路としての利用を高める為に蓋を設置することが制度上、非常に難しいです。今後、個人から土地利用を図る目的での占有申請があれば検討してまいります。

問 (1) 法定ポスター掲示場を美咲区からなぜ移動したのか (2) 次回の選挙から美咲区に戻す考えは、あるのか。

選挙管理委員会事務局長 (1) 今回、土地所有者へ設置協力依頼文書を送付したところ、フェンスの倒壊・破損した際は弁償する旨の記述をしてほしいという強い要望がありました。そこで現場を確認したところ経年劣化により一部腐食し老巧化している為、今回は危険性が高く安全面を考慮し移動しました。

(2) 民有地に設置する際は、地主の同意が必要になるので、今後は自治会長などと意見交換し安全などを考慮し、ふさわしい場所で地主の同意が得られるのであれば、移設について検討をしてまいりたいと思っております。

問 3年間で未使用分の一括交付金について、約7億円近くあるが、町長は特別枠で対応すると言う事だが3年間で一度も満額使用できなかったが、特別枠で実施するというのは何を根拠にしているのか。

町長 一括交付金は平成24年度から10年間継続しようという事で導入されたが、まず前提要件があります。県の振興計画に資する事業、県特有の課題に対応できる事業、それを執行する上でこの事業が他省庁の補助事業の対象になっていない、こういう要件があります。本県は本土に比べて国庫補助金、交付金等を含めて全国一高いと言われているが、現実は全国で12位なんです。この一括交付金制度は100%真水ではないんです。2割は市町村が負担するんです。これが裏負担分です。特別枠はしっかり確保して、事業計画特に観光関連産業を計画し最優先で特別枠の中で対応したいと考えております。

蓋がないため危険性が指摘されている排水路(美咲区)

◇大型MICE施設の誘致
◇㈱西原ファーム
◇西地区区画整理事業

大城 純孝 議員

問 町長、新知事に対してこれまで以上に誘致活動で決着をつけていただきたいと思うが。

町長 沖縄21世紀ビジョンの実現のためにも東海岸マリンタウン地区しかないと考えています。新たなライバルは出ないと考えています。

問 ㈱西原ファームについて。第三セクターの形になっていると思うので、これまでの決算概要、売上高、経常費、損益、他貸借対照表の中での資産、負債についてお聞きしたい。また、現状を伺う。

建設部長 平成25年度の決算で売上高1，539万8，000円、経常費3，884万6，000円、損益がマイナス1，447万1，000円です。資産が1，444万8，000円、負債が3，169万5，000円です。

問 決算をして1，400万円の赤字ということだが、来年度も同様な状況が予想されるのか、伺う。

建設部長 平成25年度の決算でこのような状況ですが残された事業期間でがんばりますので見守っていただきたいと思います。

問 平成23年度に㈱西原ファームは総合事務局の認可を受けているが、耕作放棄地対策を推進する法人として力不足かなと思うが。

産業課長 西原ファームについては、再生農業の事業を行っています。6次産業化の認定を受けて今後も続けていくことになっています。

問 西原町は沖縄県の基幹産業として第一次産業を引っ張って来た歴史がある。6次産業に乗って黒糖を生産、加工して商品化していくことを検討したのか伺う。

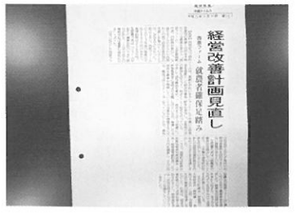
建設部長 確かに基幹産業であったサトウキビは重要であると思います。そこで付加価値をつけて次の商品化につなげていけるのか検討中です。

問 西地区区画整理事業と浦添地区の都市モノレール浦西駅との関連について伺います。これはイオンとのターミナルビルが一体化したとき西原町の西地区区画整理事業に与える影響はどう考えているのか伺います。

町長 坂田地域の今後の展開、事業の推移を見据えて取り組みたいと考えています。

問 坂田の大型店舗が移動する可能性はどうか。

都市整備課長 現在、イオン琉球さんとジャスコさんと、この場所で調整中です。



経営改善計画見直し

西原ファームの経営状況を伝える新聞記事